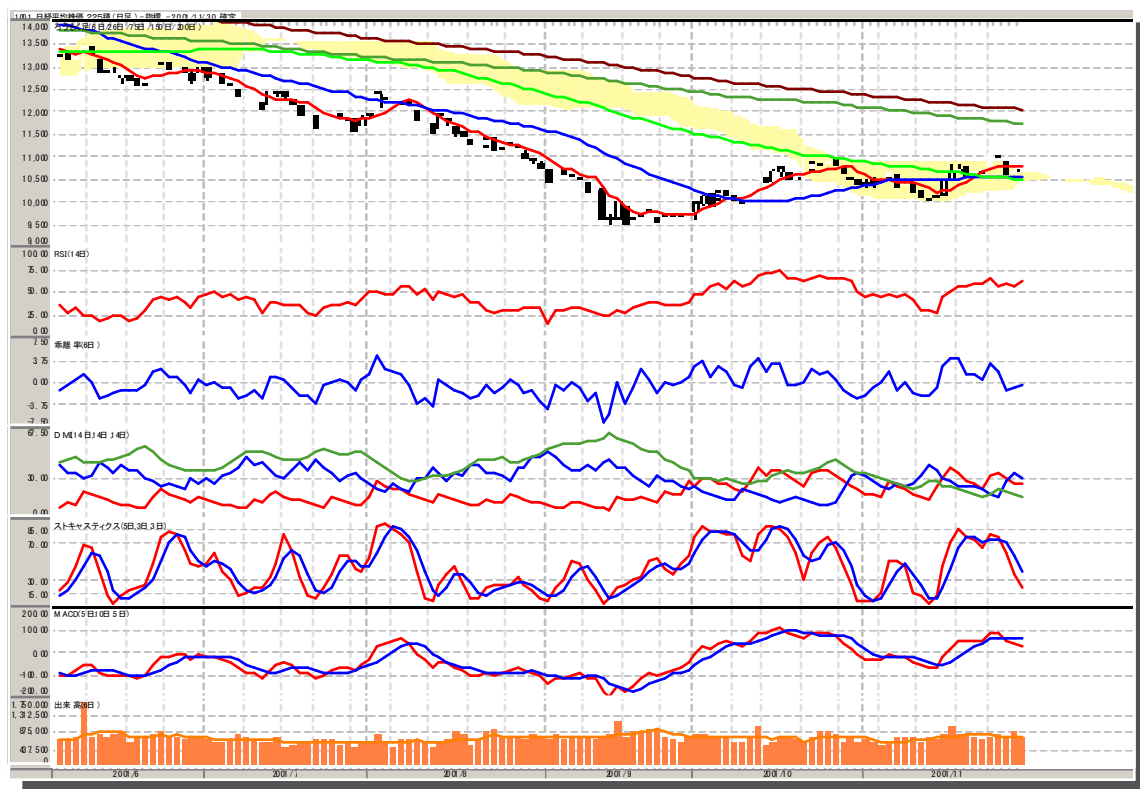


チャートカ学 2002

[応用/トレーニング編]

ChartDynamics 2002 Version 1.0



CONTENTS

■はじめに■	4
■ 1 ■ 銘柄抽出のトレーニング	6
【1】 ゴールデンクロス銘柄の抽出	6
【2】 さらなる絞り込みのヒント	12
【3】 抽出した銘柄の確認	14
【4】 応用例(問題)	15
【5】 問題の解答	16
■ 2 ■ 売買シミュレーショントレーニングの方法	18
【1】 1銘柄に集中した売買シミュレーション	18
【2】 売買シグナルによる売買シミュレーション	24
【3】 インストール前の準備	14
■ 3 ■ 値動きの予測トレーニング	29
【1】 「予想ロウソク」を使った売買トレーニング	29
【2】 メジャーラインを使った売買トレーニング	33
■ 4 ■ トレーニングのポイント	37

【マニュアル①（導入/基本操作編）の補足情報】

◇トレンドラインの消し方◇

水平、垂直、斜めトレンドラインのいずれも、次の方法で消すことができます。

①消したいトレンドラインをマウスでクリックして「選択状態」にする。

ここで、トレンドラインの色が変わり、両端に■形のハンドルが表示されます。

②トレンドラインを「選択状態」にしたら、[Delete]キーを押します。

これで、選択したトレンドラインを消すことができます。

※トレンドラインを選択後、[編集]メニューの中の「削除」を選んでも、トレンドラインを消すことができます。

はじめに

「チャート力学2002」は、売買トレーニングを行うための、3つのカテゴリの強力な付加機能を備えています。

それは、

- ①「銘柄抽出」のための機能
 - ②「チャート読解トレーニング」のための機能
 - ③「予測アシスト(補助)」のための機能
- の3つです。

①「銘柄抽出」のための機能

「チャート力学2002」では「グループ機能」「グループの設定変更機能」を使って「銘柄抽出」を行います。

「チャート力学2002」の銘柄抽出は、非常に使いやすく直感的であることが特長です。

あらゆるパターンの銘柄抽出を、約300種類の抽出条件により行うことができる、「チャート力学」の抽出機能は、一見難しそうに見えますが、一歩進んで使い始めてみると、案外簡単であることに気づきます。

同時に、ご自身で考案された抽出条件による「銘柄絞り込み」を、アツと言う間に実現してくれる「チャート力学2002」をトレードのパートナーすることに、大きな可能性を感じられることでしょう。

人間が手計算で行ったなら何年もかかるような抽出を、一瞬にして処理してくれる「銘柄抽出機能」を使いながらのトレードでは、いろいろな売買実験を行うことができ、短期間に多くのトレード経験を積むのと同等の効果が期待できます。

「チャート力学2002」を使いながら数ヶ月トレードを行ったトレーダーが、従来のやり方で二十年トレードしたトレーダーに勝ったとしても、それはある意味「当然」であると言えます。

②「チャート読解トレーニング」のための機能

「チャート力学2002」は、複雑なチャートの動きのパターンを短期間で認識し、実際のトレードに応用するための、つまり「チャート読解トレーニング」のための、強力なシミュレーション機能を備えています。

「チャート読解トレーニング」は、実際には「タイムバック機能」「予想足機能」「銘柄抽出機能」の3つを組み合わせで行います。

チャート読解のトレーニングを始めると、最初、チャートの動きが予想以上に複雑であることに愕然とします。

「チャートから株価の動きを予想するのは、もしかしたら不可能ではないか？」と、心細くなるかもしれません。

しかし、このトレーニングを続けるうちに、
「なるほど、このチャートパターンは、次にこうなるんだな」
「このチャートパターンは、買いが危険だ」
「このチャートパターンなら、空売りの成功率が高い」

というように、勝率の高いトレードのパターンが見えてきます。

このトレーニングを続けることで、チャートを一瞬見れば、チャートの「次」が読めるようになります。

これまでは、チャート読解の実戦的なトレーニングをしようにも、かんじんの「道具」がありませんでした。

しかし、「チャート力学2002」という「道具」が完成した今、トレーダーは、思う存分チャート読解のトレーニングを行えるようになりました。

③「予測アシスト(補助)」のための機能

「チャート力学2002」の「予想足機能」と「メジャーライン機能」などを組み合わせれば、複雑な株価の値動きを簡単に予測することができます。

これが「チャート力学2002」の「予測アシスト(補助)」機能です。

これにより、

「明日の株価がいくらになればゴールデンクロスする」
「明日の株価がいくらなら、ストキャスティクスが買いクロスになる」
といった、高度な予測も可能になります。

本書では、「チャート力学2002」を使った、チャート読解や予測のトレーニング方法を、実例をあげながら説明しています。

「チャート力学2002」の持つ、さまざまな機能を使いこなされ、ぜひ毎日、チャート読解のトレーニングを続けてください。

株式相場に支配されるのではなく、自らが株式相場を支配するために。

そして、トレーダーとして自立するために。

2002年7月15日

株式会社プレコオンライン 代表 長谷川 雅一

■「チャート工学2002」 応用/トレーニングマニュアル

1 銘柄抽出のトレーニング：

「チャート工学2002」を使った、「銘柄抽出」のトレーニング方法を、いくつかの具体例を使って説明します。

◇1◇ ゴールデンクロス銘柄の抽出：

最初に、26日移動平均線と6日移動平均線のゴールデンクロスを抽出する方法を説明します。

まず、ゴールデンクロスとはどういうことか、考えてみましょう。

下のチャートは、2002年2月18日の日経225チャートですが、この日のチャートは、いわゆる「ゴールデンクロス」直前の状態になっています。



ゴールデンクロスとは、中期の移動平均線、つまり26日移動平均線を、短期の移動平均線、つまり6日の移動平均線が「上に抜く」ことです。

一般的には「上昇サイン」と言われています。

デッドクロスとは、中期の移動平均線、つまり26日移動平均線を、短期の移動平均線、つまり6日の移動平均線が「下に抜く」ことです。

一般的には「下落サイン」と言われています。

では、ゴールデンクロスを自動抽出するために、その特徴を整理してみます。

【ゴールデンクロス前日】

6日移動平均線は、26日移動平均線より下にある。

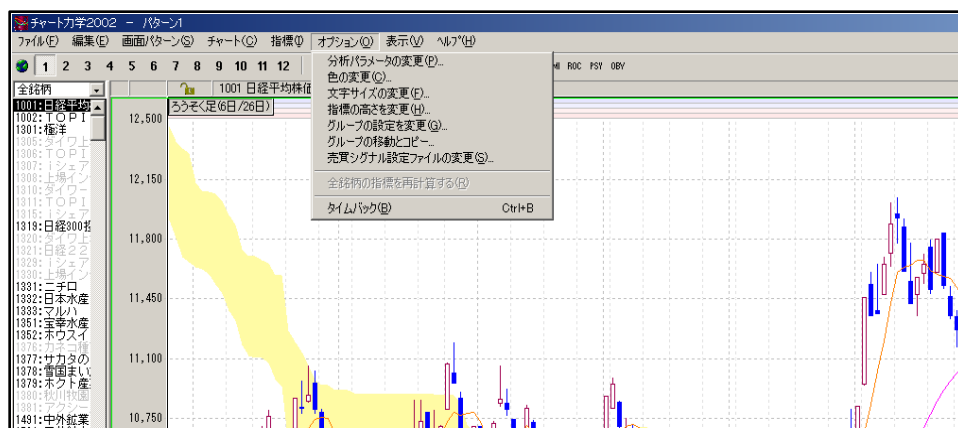
【ゴールデンクロス当日】

6日移動平均線は、26日移動平均線より上にある。

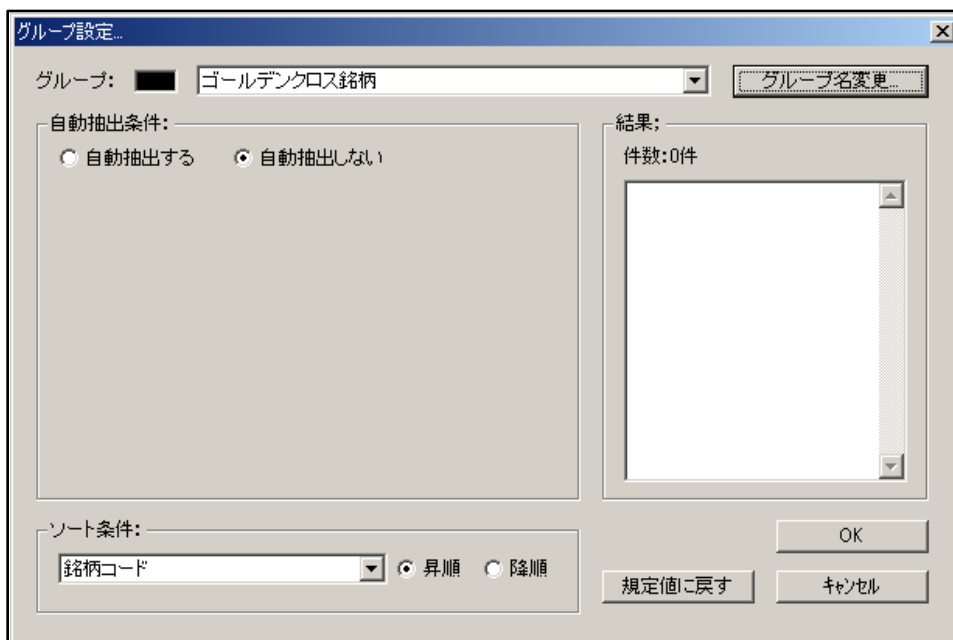
この2つの条件を、「チャート工学2002」で設定してやれば、「チャート工学2002」は、ゴールデンクロスを検索して、教えてくれます。

では、設定してみましょう。設定方法は、以下の通りです。

① [オプション]メニュー から [グループの設定を変更] をクリックします。



②「グループの設定変更」ダイアログ(下図)が表示されます。



③「グループ名」を変更します。

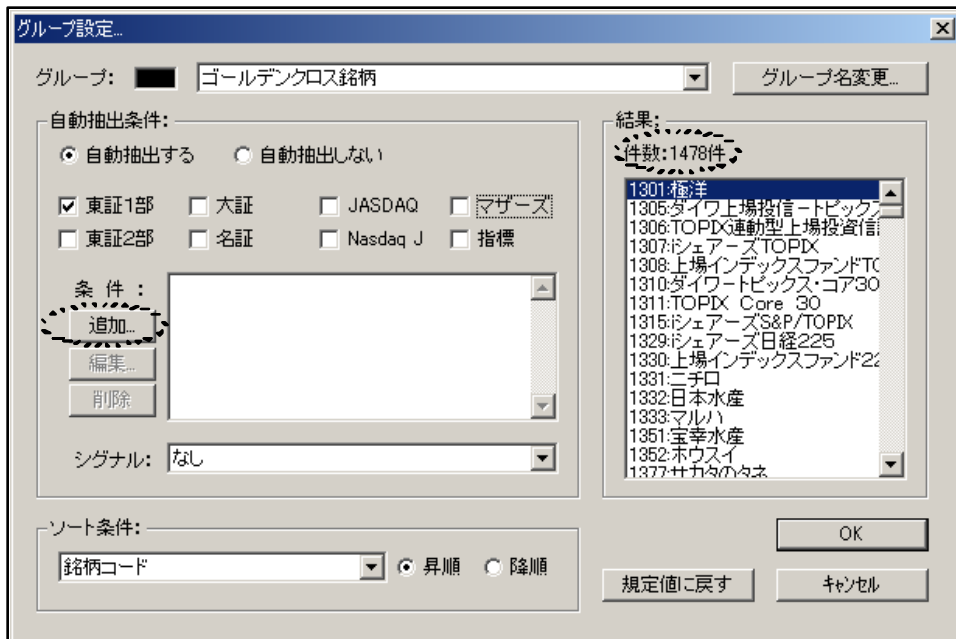
右上の「グループ名変更」ボタンをクリックして、たとえば、「ゴールデンクロス銘柄」というように、グループ名を変更します。(上図参照)
必要があれば、左上の「カラーボタン」をクリックして、グループ名の表示色を変更します。
「カラーボタン」は左上の「グループ:」と表示された、すぐ右の ■ です。ここをクリックすると、カラーパレットが現れ、表示色を変更できます。

④「自動抽出する」のチェックをクリックします。

チェックが入ると、自動抽出のための条件設定が可能な画面(右ページ上図)になります。

⑤必要のない「市場」のチェックを外します。

たとえば、「東証1部」の銘柄のみを対象に「ゴールデンクロス」を抽出する場合、「東証1部」以外のチェックを外します。(右ページ上図参照)

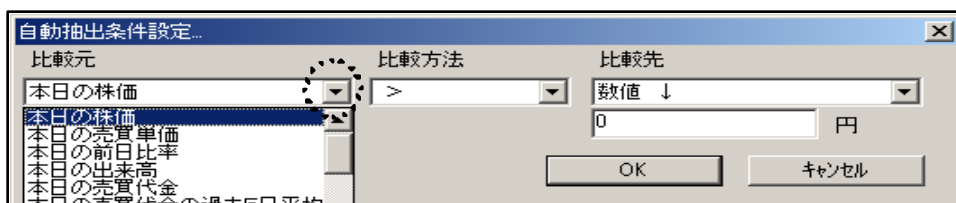


こうして、必要のない市場のチェックを外すのも、実は「銘柄絞り込み」のプロセス(過程)です。

チェックを外すたびに、右側の「結果:」の「件数:〇件」が減ってくるのがわかります。

どんどん銘柄が絞り込まれ、減っているわけです。

⑥「条件:」ボタンをクリックして、条件を追加します。

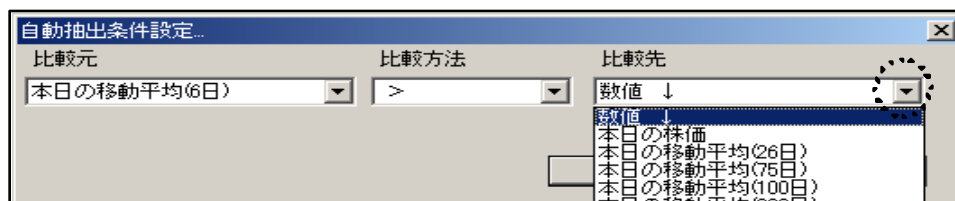


▼ボタンを押すと、条件のリストが現れます。

では、最初の条件として、「ゴールデンクロス」した当日の状態である、「本日の移動平均線(6日)>本日の移動平均線(26日)」という条件を入力しましょう。

条件を設定して、
「今日、26日移動平均線より6日移動平均線が上になっている銘柄を抽出してくれ」

と、「チャート力学2002」に命令するわけです。



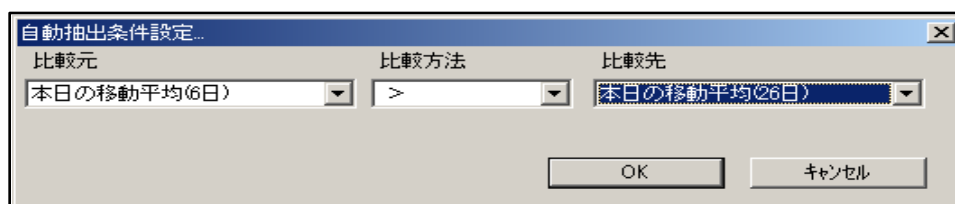
まず、「比較元」を「本日の移動平均線(6日)」とし、「比較方法」の▼ボタンをクリックして「>」を選択します。

次に「比較先」の▼ボタンをクリックして、「本日の移動平均線(26日)」とします。

これで、

「本日の移動平均線(6日)>本日の移動平均線(26日)」

という条件設定が完了しました。



この段階で「チャート力学2002」は、今日の段階で、6日移動平均線が、26日移動平均線の上にある銘柄を抽出します。

⑦さらに「追加」ボタンをクリックして、条件を追加します。

これだけで、ゴールデンクロスを検索することはできません。

次に追加する条件は、

「昨日の移動平均線(6日)<昨日の移動平均線(26日)」

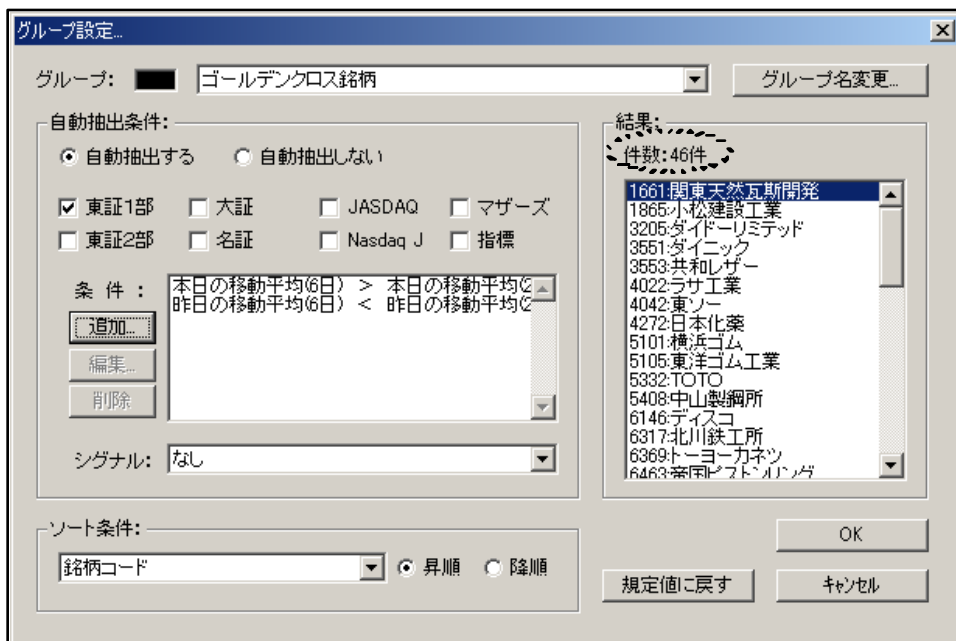
です。

つまり、

「昨日の移動平均線(6日)は、昨日の移動平均線(26日)より下だった銘柄」

という条件を追加するわけです。

下のようになれば、条件設定は完了です。



今抽出されている「46件」の銘柄は、

- ・「昨日は6日移動平均線が26日移動平均線の下にあった」
- ・「今日は6日移動平均線が26日移動平均線の上に出てきた」

つまり、

- ・「本日6日移動平均線と26日移動平均線がゴールデンクロスした銘柄」です。

これで、ゴールデンクロスの銘柄を絞り込むことができました。

◆ご注意◆

抽出を実行する日により、結果の件数は変化します。

上の例では「46件」となりましたが、あなたが行った時の結果とは必ずしも一致しません。

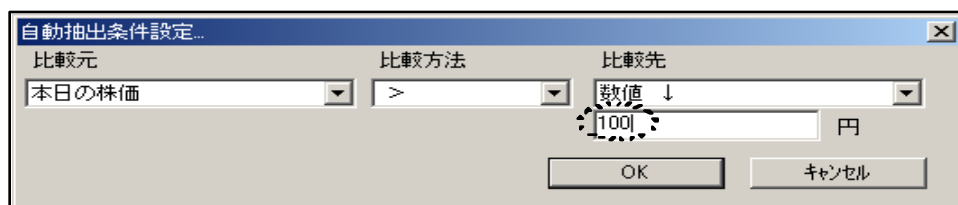
場合によっては「結果：」がゼロ、つまり「該当銘柄なし」の場合もあります。

◇2◇ さらなる絞り込みのヒント：

ここまでで絞り込んだ銘柄数は「46件」でした。
買いを検討するには、少々銘柄数が多すぎる気がします。
では、もう少し抽出条件を追加して、さらなる絞り込みを行ってみましょう。

① 株価100円以下の銘柄をカットする

では、株価100円以下の銘柄をカットしましょう。
「追加」ボタンをクリックして、
「本日の株価>100円」
という条件を追加します。



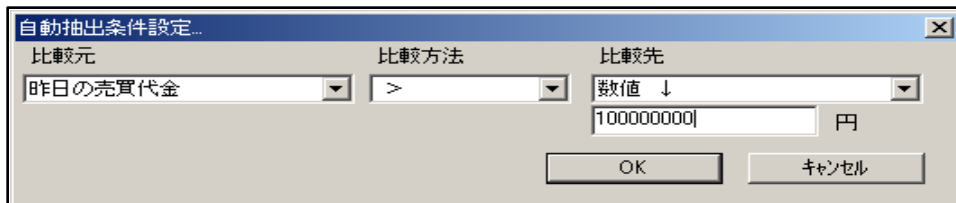
「比較元」を「本日の株価」とし「比較方法」を「>」とし、「比較先」を「数値」として、100(円)と入力します。

◆ご注意◆

数値は、かならず「半角数字」で入力してください。

② 売買代金の少ない銘柄をカットする

次に、売買代金の少ない銘柄をカットします。
売買代金の少ない銘柄をカットするには、
「昨日の売買代金>1億円」
という条件を追加します。



1億円の入力時には、0の数を間違えないよう、注意しましょう。

これで抽出条件の設定が終わりました。

3,000余りの銘柄から、わずか19件の「ゴールデンクロス銘柄」を絞り込むことができました。



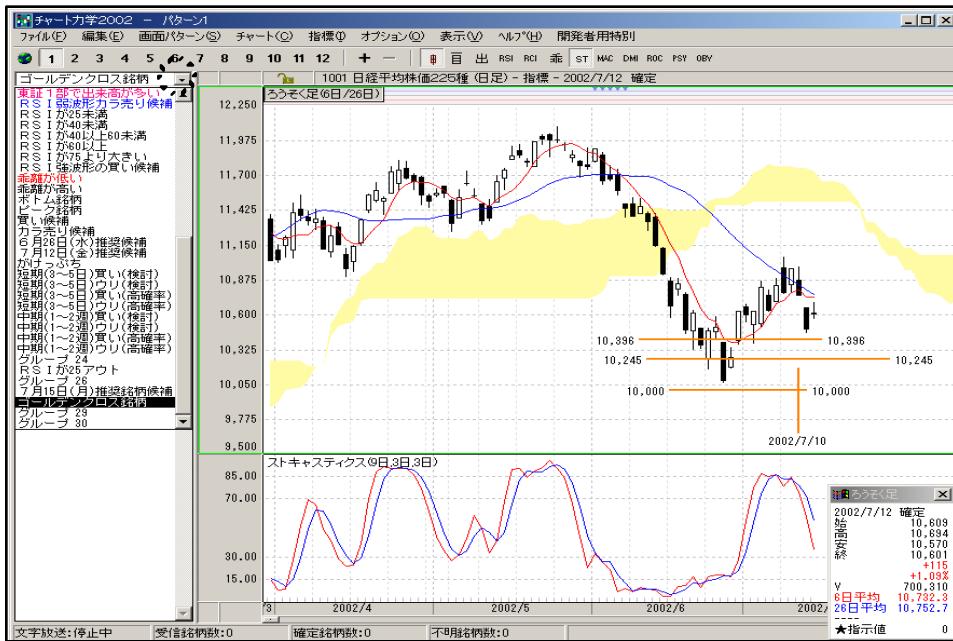
正確には、「ゴールデンクロスしていて」「株価が100円より高く」「昨日の売買代金が1億円以上」の条件に当てはまる銘柄を抽出したわけです。

さらに、「ソート条件」を設定することにより並び順を変えることもできます。

たとえば、「ソート条件：」を上図のように「本日の株価」「降順」とすれば、抽出した銘柄を、株価の高い順に並べ替えることができます。

◇3◇ 抽出した銘柄の確認：

抽出した銘柄を確認するには、まず、[CTRL]+[G] を押すか、[表示]メニューから「グループリスト」にチェックを入れ、グループ表示をONにします。
次に、グループリストの右側の▼ボタンをクリックし、リストを表示します。



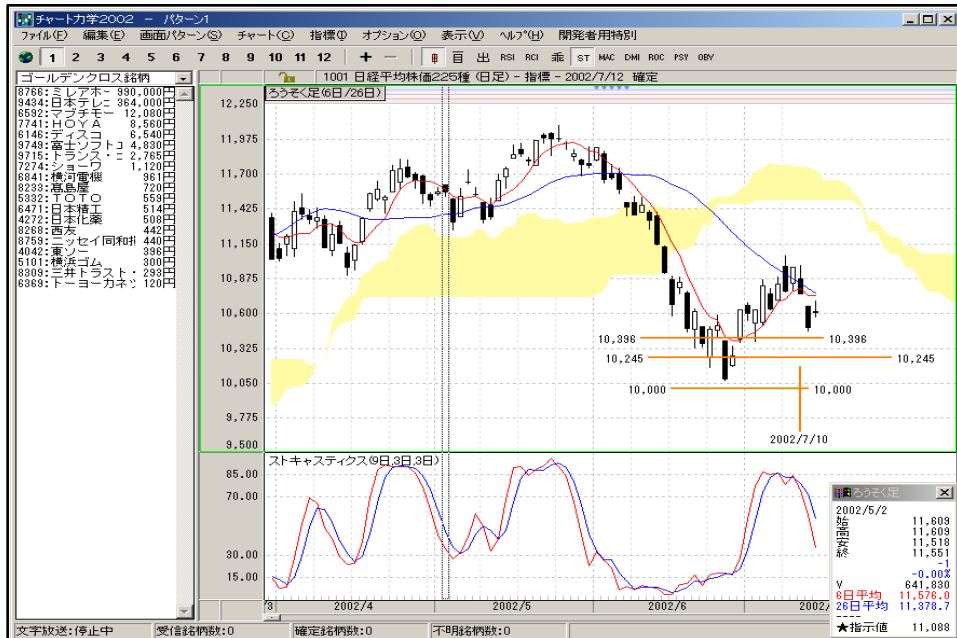
「ゴールデンクロス銘柄」をクリックします。

すると、「ゴールデンクロス」のグループが表示されます。(右ページ図)

◆メモ◆

抽出直後には、グループ表示に切り替えたとたん、今抽出した「ゴールデンクロス銘柄」のグループが表示されます。

直接銘柄名をマウスでクリックしたり、矢印キーでチャートをめくって、ゴールデンクロスした銘柄の、それぞれのチャートを確認することができます。



◇4◇ 応用例(問題) :

同様に、次の抽出をするための抽出条件を考えてみましょう。

【問題 1】

6日移動平均線と26日移動平均線のデッドクロス銘柄を抽出する条件を考え、設定を行いましょ。

【問題 2 (応用問題)】

ストキャスティクスが15以下のレベル(下の方)でゴールデンクロスしている銘柄を抽出する条件を考え、設定を行いましょ。

◇5◇ 問題の解答：

【問題1】

6日移動平均線と26日移動平均線のデッドクロス銘柄を抽出する条件を考え、設定を行いましょう。

【解答】

デッドクロス銘柄を抽出する場合、次のように設定します。

- 「昨日の移動平均線(6日) > 昨日の移動平均線(26日)」
- 「本日の移動平均線(6日) < 本日の移動平均線(26日)」

つまり、「昨日の移動平均線(6日)は移動平均線(26日)の上にあったが、今日は移動平均線(6日)が移動平均線(26日)の下にきた」、という銘柄を検索することになります。

さらに、抽出銘柄を絞り込むためには、

- 「本日の株価 > 100円」
- 「昨日の売買代金 > 100,000,000円」

というような条件を加えます。

【問題2(応用問題)】

ストキャスティクスが15以下のレベル(下の方)でゴールデンクロスしている銘柄を抽出する条件を考え、設定を行いましょう。

【解答】

ストキャスティクスは「チャート力学2002」の「長谷川式」の色設定では、

- %D … 赤
- %SD … 青

になっています。

「%K」は、計算に使われるだけで、グラフとしては表示されません。

ストキャスティクスのゴールデนครロスとは、%D(赤線)が、%SD(青線)より上になること、つまり、%D(赤線)が%SD(青線)を上を抜くことから、

- 「昨日の%D(赤線) < 昨日の%SD(青線)」
- 「本日の%D(赤線) > 本日の%SD(青線)」

という設定をすればよいことになります。

2番目の条件、

- 「本日の%D(赤線) > 本日の%SD(青線)」 を、
↓
- 「本日の%D(赤線) ≥ 本日の%SD(青線)」

とすれば、「完全にクロスしてはいないが、%Dと%SDが接した銘柄」を抽出することができます。

さらに、下の方でクロスしているという条件を設定するには、

- 「本日の%SD(青線) < 15%」

という条件を加えます。

さらに、移動平均線のゴールデนครロス検索と同様に、

- 「本日の株価 > 100円」
- 「昨日の売買代金 > 100,000,000円」

という条件を追加すれば、株価が安すぎる銘柄をカットし、売買代金の少ない銘柄をもカットすることができます。

ここで行った「条件付きストキャスティクスのゴールデนครロス」は、買いシグナルとして有効性が高いもので、実売買に応用することができます。

2 売買シミュレーション・トレーニングの方法：

◇1◇ 1銘柄に集中した売買シミュレーション

ここでは、「チャート力学2002」を使った、売買シミュレーションの方法を説明します。最初にご紹介するトレーニング方法は、1銘柄に集中した売買シミュレーションです。

たとえば、[4503山之内製薬(日足)-東証1部-1997/9/10 確定]を扱う売買シミュレーションをやってみましょう。

- ①「チャート力学」の[オプション]メニューを開いて「タイムバック」をクリックし、「タイムバック・モード」に入ります。



- ②「タイムコントローラ」で、「1997年9月10日」にタイムバックします。

微調整は ◀ または ▶ ボタンで行います。

③ 売買作戦を決めます。

いろいろな作戦が考えられますが、ここでは「直近の底値で買って、直近の天井で売る」という作戦を考えます。

まず、前回の底値に「水平トレンドライン」を引いて、狙いをつけます。



少し余裕を見て「2,870円を割り込んだら買い」とします。
水平トレンドラインは2,870円に引きます。

④ 時間を進めます。

では、「タイムコントローラ」の▶ ボタン、あるいは [PageDown]キー を使って、時間を進めてみましょう。

株価がターゲットプライスにきたら「買い」の判断をします。

9月22日の段階で、かなりターゲットプライスに接近してきましたが、「もう少し下がりそうだ」と考え、買いは見送りました。



すると翌日から株価が上がってしまい、「買い逃したか」という感じです。



⑤ 「買い」の判断。

9月29日、底値付近に再接近して、元気のよい「下ヒゲ陽線」を付けました。この日の終値は2,900円です。
やや高い気もしますが、2,900円で1,000株買ったものとしてします。



⑥ 売り目標値の設定。

買ったところで、前回高値付近に「水平トレンドライン」を引いて、売り目標値を設定します。(上図)

売り目標値は3,060円です。
うまく上がるでしょうか。

[PageDown]キー を押して、時間を進めます。

10月1日に、一瞬、目標値に達しましたが、翌10月2日は下がってしまいました「売り時」を逃してしまったかもしれません。



⑦「指値」の設定。

次に上昇した時、確実に約定させるため、あらかじめ「指値」を入れておくことにします。

10月2日(上図)の段階で、少し余裕を見て、3,040円に売りの指値を入れたとします。

時間を進めます。

◆メモ◆

このように、チャートの値動きを見ながら、「確実に儲けるためにはどうしたらよいか？」

ということを考え、この例のように「指値を入れておく」というような作戦を考えることで、実際のトレードを行ったのに近い、トレーニング効果が得られます。

⑧ 売り成立。トレード終了。

さっそく翌日、指値の3,040円を超える上昇となりました。
ここで「約定」。トレード終了です。



⑨ 結果の整理。

2,900円で1,000株買い、3,040円で1,000株売ったわけですから、差額は140円、14万円の利益が出ました。

手数料の3,000円を引き、申告分離課税の26%を引いて、利益は約10万1千円となりました。

このように、1銘柄に集中してシミュレーションをくり返すことで、その銘柄の動きのクセがわかり、実際のトレードに応用可能な重要なヒントが得られます。

◇2◇ 売買シグナルによる売買シミュレーション

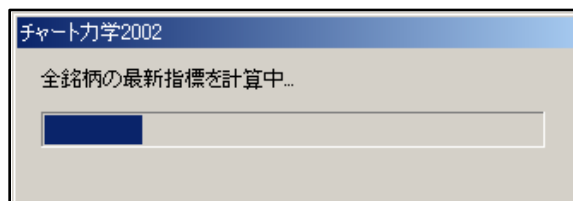
では、次に「売買シグナル」による、売買シミュレーション(トレーニング)をやってみましょう。

- ① 1998年2月26日にタイムバックします。



この時点で「売買シグナルが出ている銘柄」を調べるためには、「指標を再計算する」ボタンをクリックして、指標を再計算し、「売買シグナル」が出ている銘柄を抽出します。

下のようなウィンドウが表示され、指標の計算が行われます。
この作業には、数分間かかります。(処理時間は、マシンの性能による)



② 計算終了。

計算が終わると、「タイムコントローラ」の「指標を再計算する」ボタンが淡色表示されます。

これは「この日については、指標の計算が終わっていますよ」という意味です。



ここで、[CTRL]+[G] を、あるいは [表示]メニュー から「グループリスト」をクリックして、グループ表示をONにします。

そして、「短期買いシグナル」のグループを選択します。

「短期買いシグナル」のグループには、この日の段階で「チャート力学2002」が「買い」と判断した銘柄が表示されます。

③ 銘柄選び

リストに表示されている最初の銘柄 [2206江崎グリコ] を選択します。



「短期(3~5日)買い(検討)シグナル」が点灯しています。

買い(検討)シグナルは、確率が高くないので、次の銘柄に進みます。

次は、[4005住友化] です。

[4005住友化] については、「短期(3~5日)買い(高確率)シグナル」が点灯しています。(右ページ図参照)

この銘柄を、この日(2月26日)の終値である367円で10,000株「買い」として、シミュレーションしてみます。

◆メモ◆

右の図は「チャート力学2002の特別(開発者用)バージョン」であるため、高確率シグナルが2行にわたって表示されていますが、製品版では1行、1回のみの表示となります。



④ 売り。トレード終了。

買った後、2日間は値上がりしましたが、3日目に陰線を付け下がり始めました。短期の買いシグナルなので、3日後(3月3日)の終値397円で全株売ります。



⑤ 結果の整理。

2月26日に367円で10,000株買い、3月3日に397円で10,000株売りですから、利益は30万円です。

ここから、手数料の3,000円と消費税、申告分離課税の26%を差し引いて、約21万9千円の利益となりました。

⑥ その後の値動きを検証

念のため、その後の値動きを検証します。



ジグザグしつつ伸び悩み、約1ヶ月後の4月2日には大きく下落します。短期売買で手堅く利益を取るのが正解であったことがわかります。

このように、「チャート力学2002」では、さまざまな売買シミュレーションを行うことができます。

3 値動きの予測トレーニング：

◇1◇「予想ロウソク」を使った売買トレーニング：

次に「予想ロウソク」を使った売買トレーニングについて、実例をあげて説明します。

- ① 1999年5月24日にタイムバックします。
- ② 1999年5月24日にタイムバックしたところで「指標を再計算する」ボタンをクリックして、全銘柄の指標を再計算します。
- ③ 売買シグナルの点灯した銘柄をグループ表示で調べ、「高確率」の買いシグナルが出ている[9531東京ガス]を、この日の終値である295円で1万株買ったことにします。



④ 3日後のチャートから、翌日の足を予測

3日後の5月27日、株価は順調に上昇しています。
ここで、翌日の予想足を書いてみましょう。



連日の値動きを見てみますと、

- 5月25日 安値 … 293円 高値 … 297円 値幅 … 4円
- 5月26日 安値 … 297円 高値 … 303円 値幅 … 6円
- 5月27日 安値 … 300円 高値 … 304円 値幅 … 4円

と、おおむね4～5円の値幅で動いていることがわかります。
明日も同じ値幅で動く予想して、4円幅の口ウソクを書いてみます。

正確には、始値：304円 高値：308円 安値：304円 終値：307円 の予想口ウソクを書いてみます。(右図)

⑤ 5月28日の「予想足」を書く

見づらいかもしれませんが、一番右側のロウソクのバックには、うすい灰色のラインが入っています。

これは、一番右側のロウソクが予想足であることの印です。

こうして予想足を書いてみますと、明日の段階で、26日移動平均線に到達することがわかります。

26日移動平均線はレジスタンスになりやすいので、翌日、つまり5月28日に、307円で売り指値をすることに決めました。



⑥ 5月28日の、本当のロウソク足を表示する

ここで、タイムコントローラの▶ ボタンをクリックして、日にちを1日進めます。

すると、5月28日の予想足が右側にずれ、予想足の左側に5月28日の本当のロウソク足が表示されます。

やはり狙い通り307円が27日の最高値でした。

307円で指値をしておけば、約定した可能性があります。



◆メモ◆

予想足を消すには [Esc] キー を押します。

[編集]メニュー から「予想ロウソクを消去する」を選んでクリックしても同様です。

⑦ 売買のまとめ

295円で1万株買い、307円で1万株売ったので、利幅は12万円でした。

◇2◇ メジャーラインを使った売買トレーニング :

次に「メジャーライン」を使った、売買トレーニングについて述べます。
 「予想ロウソク」の説明に使った、[9531東京ガス]を例に、直近の値下がり幅から、次の高値を予想して、売値を決める方法を説明します。

やはり、5月24日に295円で1万株買ったことにします。

①値下がり幅の計測

チャートの直近の高値から安値にかけて、斜めトレンドラインを引きます。
 引いたトレンドラインをクリックしますと、下の図のように、値下がり幅と、そのパーセンテージ、値下がりに要した日にちが表示されます。



薄く、やや見づらいですが、左上から右下まで引かれたトレンドラインの右側に、16日/-38円/-11.0% という数値が表示されています。

② 上昇を予想するラインを引きます。

この値下がり幅の「半値戻し」があると考え、11%の半分、5.5%の上昇を予想するラインを引き(上図)、上限に水平トレンドラインを引きます(下図)。



実際には、ぴったり5.5%のラインを引くことが難しいため、5.44%のラインを引いています。

このトレンドラインを引くことで、上昇の予想値が310円であることがわかりました。

310円に売りの指値を入れて、値上がりし、約定するのを待ちます。

③ 5月30日に約定。

5月30日に、目標値の310円に到達。

約定させることができました。



④ 売買のまとめ

295円で1万株買い、310円で1万株売ったので、利幅は15万円です。

⑤ その後の値動きの検証

その後の値動きを検証してみます。

実際には、「半値戻し」の後も、少し上昇し、317円がレジスタンスになり下落開始。

短期的には、やはり、欲張らず「半値戻し」を狙った売りが正解だったことがわかります。



上の図のように、6月21日にはデッドクロスとなりました。

4 トレーニングのポイント：

チャート読解のトレーニングでは、ただ、漠然とチャートをめくっていても成果があがりません。

あらかじめ、自分なりの「売買作戦」を考え、その「売買作戦」を使って、実際に売買するのと同じ、真剣な心構えでトレーニングを行う必要があります。

トレーニング中に「買い」「売り」と判断した時には、表計算ソフトに、買値、売値を入力し、利益を計算してみるのも効果的でしょう。

こうした売買シミュレーションをしてみると、株というのが、いかに儲けづらく損をしやすいものであるか、おわかりいただけると思います。

しかし、いったんチャート読解をマスターすれば、時間をかけて、ニュースや材料を細かく調べる必要もなく、チャートだけで、かなり安全、確実に利益をあげることが可能になります。

「チャート力学2002」を使ったトレーニングを、ぜひ、長期間お続けになれることをお勧めします。

◆お知らせ◆-----

以上のようなトレーニングの詳細については、弊社主催の「日本株トレード教室」で詳しくお教えしています。

「日本株トレード教室」では、さらに進んだ実戦的な銘柄抽出の方法や、実際の売買を交えながら、「チャート力学2002」の、実トレードへの応用法を解説しています。

さらに高度で実戦的なチャート読解の手法や「チャート力学2002」の利用法を学ばれたい方は、受講をご検討ください。

「チャート力学2002」マニュアル② 応用／トレーニング編

- ・発行：2002年7月15日 第1刷 (Ver. 020715)
- ・著者：長谷川雅一
- ・編集：長谷川 雅一
- ・発行所：株式会社プレコオンライン

開発・発売元：株式会社プレコオンライン

〒509-7202 岐阜県恵那市東野1327-3

Tel:0573-25-9600

Fax:0573-25-9602

E-Mail: m@preco.co.jp

<http://www.preco.co.jp>

Copyright (C) 2002 Quake co., Ltd.